

「専門学校関係者と知事との意見交換会」 概要

1 日時

令和4年6月9日（木） 16時15分から17時10分まで

2 場所

長野県庁西庁舎 112号会議室

3 出席者

<専門学校>

| | | | |
|--------------|--------------|-----|--------|
| 学校法人秋桜会 | 丸の内ビジネス専門学校 | 校長 | 内川 小百合 |
| 学校法人平青学園 | 長野平青学園 | 校長 | 鈴木 詩郎 |
| 学校法人上田佐藤学園 | 上田情報ビジネス専門学校 | 校長 | 比田井 美恵 |
| 学校法人コア学園 | 飯田コアカレッジ | 校長 | 牧島 晃 |
| 学校法人クリエイティブA | 長野美術専門学校 | 副校長 | 松本 直樹 |

<長野県>

| | |
|------------|-------|
| 知事 | 阿部 守一 |
| 県民文化部部長 | 山田 明子 |
| 産業労働部次長兼参事 | 西沢 弘喜 |
| (進行) | |
| 私学振興課長 | 丸山 俊樹 |

4 意見交換テーマ

- ・リカレント教育（社会人の学び直し）について
- ・県内企業への人材定着について

5 意見交換会概要

<始めに>

(阿部知事)

長野県では、現行の県総合5か年計画しあわせ信州創造プラン2.0において、「学びと自治の力で拓く新時代」と銘を打っている。いろいろな産業振興をするにあたって、あるいは地域を元気にするにつけても、やっぱり「学び」がコアな概念と考えている。

また、人口減少が急激に進んでいる中で、人口減少の問題と学びの問題は表裏一体の関係にあると考え、専門学校を含めた様々な学びの場がこの人口減少の社会でどう対応していくかが非常に重要な課題と思っている。

本日は、皆様方の問題意識を共有させていただいて、どうやって学び続けられる県をつかっていくか、あるいはその人口が定着する県をつくるということと一緒に考えさせていただきたい。

<留学生受け入れ>

(出席者)

留学生に関して、長野県は非常に住みやすく、受入れ体制が整っており、積極的に受け入れを行っているといった宣伝をしてほしい。

(知事)

信州の宣伝についてはより一生懸命していきたいと考えているが、どういう PR をすべきと考えるか。

(出席者)

長野県を宣伝する材料が欲しい。例えば、長野県はすごく教育に熱心な県で、留学生の受け入れ体制が他県よりもいいというような PR ができるようなもの。

(知事)

産業労働部で実施している、企業立地の PR 事業の発信とかビデオをもう少し学びにカスタマイズして作れると思う。

(出席者)

他県で留学生の保険料は全部県が負担しますというところがある。長野県でもちょっと他とは違うところがあると、長野県のアピールができると思う。例えば、留学生の奨学金とかがあればよいと思う。

(知事)

奨学金の返還について、県内に就職した場合の奨学金返還支援制度を設ける。海外の奨学金を対象にできるかについては考える。

<リカレント講座や訓練給付金制度の広報>

(出席者)

学び直したいと思っている人たちは学びのモチベーションが非常に高く、学びの姿勢としても若い生徒たちにも非常に刺激となるため、そういった人たちが入ってきやすい環境づくりをしてほしい。

具体的には、訓練給付金制度の拡充、利便性の向上や制度の積極的な広報をしてほしい。例えば、専門実践給付金訓練の対象校の一覧があり、そこから学校のホームページにリンクして飛んでいけるような形になっていれば、利用しやすいのではないかと考える。

また、子どもを抱えている人も学び直しをして資格を取り、職に戻りたいというニーズは高いので、ここに応えていけるような制度拡充をお願いしたい。

(西沢産業労働部次長兼参事)

以前からそういうお話をいただいていたので、今年度は予算化し、社会人の学びのポータルサイトを作っていく予定。その中で、国の制度や県の制度わかりやすいよう整理し、また、各専門学校でやられていることも体系を立てて、見やすいようなものを作っていきたい。

また、補助金等の制度の説明会については、労働局と相談しながら進めることを検討する。

(知事)

県だけでつくるのではなく、専門学校の意見を聴きながら一緒につくっていければと考える。

また、話のあった子育てをする者の人たちに対しての支援策については、学びの側面だけでなく、社会の格差を何とかするという観点でも考える必要があると思っていたので参考にさせていただきたい。

<労働観（職業教育）>

(出席者)

目的意識もなく、働いている人がいると感じているため、子どもうちの早い段階から「勤労観」、「労働観」を教え、育てていってほしい。労働感を持った県民をたくさん育てることが、地域としての力も強くなり、良い効果が生じると考える。

(知事)

労働観を教えるということは重要と考えている。専門学校の取組をこちらでも学ばなければならない。

<IT人材確保><企業や技術専門校等との連携>

(出席者)

数多くの地元企業に協賛会に入っていており、卒業生の大半が協賛企業に就職しており、ほぼ100%が地元に残っている。また、地域の技術専門校や短大と協力し、学生募集をしているが、それだけでなく、授業もお互いのものを受け入れたり、先生も行き来できるようなことができたらいと感じている。

IT分野の講座に力を入れたいが、それを生徒に教えることができる先生が不足している。県の方でもリクルートしていただけるとありがたい。

(知事)

先生の確保については、重要だと認識している。例えば今、ITバレー構想とかでIT人材誘致とかIT企業の誘致をやっている中で、教える側に回りたいという人も多分いると思うので、そこを視野に入れて繋いでいきたい。

(出席者)

これは、IT、ICT関係の学校に共通している課題で、教えたいけれども教えるための先生がいない状況なので、人材バンクのようなものがあるとありがたい。

(知事)

産業分野の人たちと話をしていても、デジタルがわかる社員が欲しいということはよく耳にする。デジタルがわかる社員が欲しい前に、デジタルがわかる人を教える人を確保しないとけないということが重要と認識した。

また、協賛会システムは大変良い取り組みと感じている。県でも企業側と学校との繋がり方については、考えたい。協賛会システムみたいな話がもっと広がるといいと思うので参考にさせていただきたい。

それから講師や授業の相互乗り入れについては、個別にやっていると限界があると考えている。お互いに派遣し合うとかもっと柔軟にできるかもしれないと思う部分があるので、よく考えていきたい。

<県の方向性の打ち出し>

(出席者)

県の重点課題として、どういった産業を伸ばしていきたいか。例えば観光消費だったりとかあるいは農産物の高付加化だったりとかそういったものを打ち出していただくと、どういったニーズが学生に求められているかをこちらでも把握が可能となり、対応していける。

(知事)

現在、長野県総合5か年計画を作成中で、方向性については、今後、説明していくことになると思うが、具体的にはどういったイメージか。

(出席者)

横串に教育界と産業界へ結びつけるかとか、それと行政がどう関わっていくかということ。

(知事)

例えば、観光の戦略について、インバウンドを増やすにあたって、外国人に対してわかりやすい表示というのは必要と考えているが、それらの部分については、観光関係者及びデザイン関係者で交流する場が出てくると思われる。

(出席者)

そういったことが必要と考える。観光関係者が県外ではなく、県内の事業者とマッチングできるようになっていけばよいと考える。

(出席者)

専門学校は大学等と比較して卒業生の大半について、地元に着する人が多い。県内の人材定着としては、これは非常に重要と考えている。

<まとめ>

(知事)

冒頭で申し上げたとおり、学びと実は人口定着がセットだと強く感じている。

若者が長野県に定着するためにどうすればいいかを一緒に考えて実行していくパートナーとして専門学校の方にはお願いしていきたい。ぜひこれからも継続的にこういう場を作っていきたい。